

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-2 県産品の販路開拓・拡大の支援
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課木材振興室長 大國 敏彦	電話番号	0852-22-5156
----------	-----------------	------	--------------

事務事業の名称	木材生産流通対策事業		
目的	(1) 対象	木材加工事業体、県民	
	(2) 意図	県産木材の需要拡大と販路拡大のため、県内県外の需給動向、木材輸入の見通し、住宅の建築動向などを調査して、事業体に対して専門的な情報を提供する。併せて、消費者である住宅等の施主に対して県産木材をPRする。	
事業概要	木材加工事業体が行う施設整備や販路開拓の参考となるよう、木材需給に関する情報を収集・提供する。県内加工の木材製品の生産・出荷が拡大するよう、利用事例PRによる需要拡大、県外での販路拡大の取り組みを行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		5.00	7.00	9.00	10.00	
		新たに原木安定供給と加工体制強化を実現した工場の数	実績値	0.00	5.00	12.00	23.00		件
			達成率		100.00	171.40	255.60		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00				
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00				%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,686	1,780
うち一般財源(千円)	1,686	1,780

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

原木増産の気運の高まりと同時に、原木確保の環境は量・質の両面で改善されつつある。これらを背景に、23事業体が規模拡大や質の高い製品加工のための新たな施設導入に踏み切った。県が大阪事務所に販路開拓の担当職員を配置した効果が現れてきている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

原木増産対策のスタートに併せて、原木の需用者である製材、合板、チップの各加工場に対して、生産規模の拡大、高品質・高付加価値な製品加工施設の導入を働きかけた結果、木材生産事業者との原木安定需給協定の締結と、新たな施設の導入に対して積極的に取り組む姿勢がみられるようになった。
24年度に県も参画して設立した木材製品県外出荷しまね事業体連合は、大阪、名古屋、東京、広島での販路開拓の取り組みを展開し、新規の取引先を確保するとともに、製品の県外出荷額も伸ばした。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
循環型林業を本格軌道に乗せるには、A材の供給先である県産木材製品の出荷量（額）が足りない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
県内の製材工場は、個別の注文に応じる小規模・多品目生産型が大半であり、製造コストの縮減は容易ではない。
県外に販路を持たない工場が多く、大きな市場で厳しい評価に触れる機会が少ないことが、意欲向上のネックの一つになっている。
- ③原因を解消するための「課題」
先導的役割を果たす木材加工場（加工の規模拡大、高品質・高付加価値加工施設の導入、県外への販路を開拓済）がキーステーションとなって、県外で独自に営業活動のできない小規模工場の製品を含めて、一括出荷できるような県内ネットワークを形成が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

高品質化（人工乾燥、JAS取得）、高付加価値化（不燃処理、フレカット、防腐処理）により、質の面で製品競争力を高める。
先導的役割を果たす木材加工場（加工の規模拡大、高品質・高付加価値加工施設の導入、県外への販路を開拓済）がキーステーションとなって、県外で独自に営業活動のできない小規模工場の製品を含めて、一括出荷できるような県内ネットワークを強化する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）